7 月 17 日（金）午後
英語プレゼンテーションコンテスト
ピフレホール

コロナ、大雨警報、期末考査と様々な懸念要素があり、直前まで実施が危ぶまれていましたが、なんとか 3 年生の保護者の方にもご来場いただくこともできました。プレゼンはもちろん、QA もうまく切り抜け、それぞれに達成感を得ることができたようです。

Groups and Topics

Group A
Change Students, Change Our Community:
Empowering Young Students to Assist People with Disabilities with a Game Style Class
ONITSUKA　NISHIKAWA　MIYAMOTO

Group B
Do You Conform to Your Peers?:
To Recreate a Real Situation in Which Conformity Occurs
ARIMOTO　HONDA　YAMAMOTO　YONEZAWA

Group C
Let's Exercise While Listening to Music:
Can Our Favorite Music Reduce the Rate of Perceived Exertion?
AKITA　ONISHI MIKI

Group D
Which Marker Makes You a Better Worker?: The Best Color for Memorization
ISHII　ISHIKAWA　NAMIKI　MATSUZAKI

Group E
You Can Rule the Next Game: Tips for Service of Volleybal
AOKI　TAKAMIYA　NAKAJIMA　FUKUSHIMA

Group F
An Advancement in Plastic Bottle Rocket Technology:
Two-Stage Plastic Bottle Rocket
KAMIOKA　KOYAMATE　TAKATA　HAYASHI

Group G
"Uchimizu" Project: Saving the Earth Using Recycled Domestic Wastewater
TAKEDA　NAKANISHI　MATSUMOTO

Group H
Extracting Ethanol: A Proposal for a New Way to Separate Water and Ethanol
KIRA　SAITO　MATSUSHITA　MORIGUCHI

Group I
Can Wire Net Stop Landslides?
HAJIYAMA　FUCHIGAMI　YASUDA　YILMAZ

Group J
Unraveling the Mystery of Cockroaches' Food Preferences

MURAKAMI　NITTA　SHIGETA　WATANABE

Group K
Evacuation Simulator

KITAGAWA　WATANABE

Judges

Dr. Ishikawa Shinichiro	Kobe University　(Chief Judge)
Dr. Yasuyuki Toda	Osaka University
Mr. Sean Rawlinson	Nagata SHS
Mr. Ivan Armstrong	Awaji-Mihara SHS
Mr. Daniel Oriordan	Kakogawa-Higashi SHS
Mr. William McNichols	Kobe SHS

英語プレゼンテーションを終えて

二年間集大成といえるような発表にすることができた。発表準備の期間がとても短く、前日のリハーサルの時点では、まだ原稿があやふやなところもあったが、本番では班員の助けもあり伝えたい内容をしっかりと伝えることができたように思う。大学の先生方の講義から始まりテーマ決めやテーマ変更、探究中に生まれる新たな問題などさまざまな課題の一つ一つに丁寧に向き合い続けることで問題や科学への関わり方を少し理解できたように思う。

先輩方のプレゼンを見たときは、自分がこんなに英語を話すことは無理だと感じていたが、実際に自分たちが発表する立場になってみると、探究や授業などを通して、英語力も向上し、原稿やポスター、スライドを作る中で、英語での発表という点に関してそれほど不安はなくなった。しかし、Q&A に関しては、本番直前まで本当に心配だらけだった。プレゼンの準備の中で、発表練習やスライド作成に時間がかかり、Q&A はほぼぶっつけ本番であるため、緊張せずにはいられなかった。前日の夜に、聞かれそうな質問を一人でベッドに座りながら 15 個程度考え、それに対しての答えを何となくだが作った。その甲斐あって、本番では質問にある程度答えることができた。とても大変だったが、班のメンバーだけでなく、クラス全員で励ましあって、全員が良い発表で終われたと思うので、とてもよかった。

とても大変だったけど、楽しかった。期間が短いなかでも、その中で最高に近いものにすることができて良かった。結果やコメントは厳しい意見もあるが論文に活かせたら活かせていきたい。今年のスライド、どの班もレベル高くてすごかった。とりあえず時間内に間に合ってよかった。質疑応答に関しては自分の英語能力の低さに後悔を感じている。おそらく、高校生で自分の研究を英語でプレゼンする機会なんてほとんどできないから、貴重な経験になった。マグレだと思うが特色に合格して本当に良かったと改めて感じさせられた。ここで学んだこと、感じたこと、改善するべきだったことを大学や社会で役立てていきたい。

この 1 年間、なかなか進まない探究活動とコロナの休校のことでたくさん悩みました。毎週ある探究の時間が本当に長く感じて、楽しくないなと思いながらパワポを作ったり、原稿を書いたり、河川敷まで行ったり。でも、ホールでの発表はたった１０分しかなくて、終わってしまえばこの１年間すごく短くてあっという間でした。もっとこうすればよかったなとかいろいろ後悔はあるけれど、探究活動できてよかったなと思いました。自分が思ったことや後悔したことをアドバイスとして後輩に伝えられたらいいなと思います。

前日のリハーサルで、原稿がボロボロすぎて不安だったが、その日の夜に猛練習したかいがあって、当日は自信をもってプレゼンテーションを行えた。ただ、家に帰って親に撮ってもらっていたビデオを見返すと、自分の英語の話し方であるとかスピードであるとか、イントネーションであるとかが全く納得のいくものでなかったのは言うまでもない。今回のプレゼンテーションで研究発表としてはひと段落ついたがこれからも英語力が向上するように自分でできることをやっていきたい。また、石川先生からの講評にもあったようにまだまだこのテーマにも深く入れるポイントがあることに気づけたのも大きな収穫であった。石川先生の研究に向ける視点もどこかで活用できればなと思う。最後に、お世話になった先生方、講師の先生、クラスメイト、そして班のメンバーへ。ありがとうございました！

探究発表会を終えて、とにかく今はやりきった気持ちでいっぱいです。正直、テーマ決めから最遅と言われ、班分裂の可能性もあったほどの問題班で、「よくここまで漕ぎつけたな」とさえ思ってしまいます。これまで支えてくださった先生方、実験に協力してくれたクラスメイトや長田生、そして班のメンバーには本当に感謝しています。結果として、2 位という素晴らしい賞を頂けたのも、仲間の助けがあったからこそだと感じます。最後の最後に、心から「やりきった」と言えるプレゼンテーションができて、本当に良かったです。

探究を始める前は人前で話すことも苦手だったし、ましてや英語で話してステージに立つ自分の姿を全く想像できませんでした。でも、外部での発表を重ねていくうちに、アドバイスをもらったり、お褒めの言葉をいただいたりするうちに、少しずつ自信もつくようになりました。自分たちの班はテーマ決めに難航したからその過程でついた知識も役に立ったことも…。当日は他の班の最終的な探究の成果も見ることができてとても楽しかったです。分裂危機にも瀕した私たちだけど、この３人と一緒にできたからこそステージの上に立っても緊張せずに発表できました。探究活動ができて本当に良かったと思えた一日でした。論文を書き上げるまで走り抜こうと思います。

僕らは常に、お互いができないことを補い合って探究してきました。モデリングとコーディング、英語原

稿とスライド。なかなかにいいコンビだったのではないかと思います。もちろん二人ならではの大変さなどはありましたが、それ以上にやりやすかったし、なによりも本当に楽しかったです。今回、僕らは交互に発表することにしました。理由は特になく、その場のノリで決めたのですが（僕の記憶では)、案外良い方法だと思います。お互いがお互いの話を聞いて、次に何を話すかを思い出すことができたり、1つの塊が小さいので余裕も生まれたりしました。後輩にも推奨したいですね。僕らのシミュレーターは、もっと大きな可能性を秘めています。もっと精度をあげて、石川先生が言っていたように商品化して売りつけるもよし、AI を搭載するもよし、はたまた製図データを読み込めば即 3D モデルが出来上がるソフトなんかを付属すれば、本当にどこでも使えます。ここで終わるのではなく、もっと発展させていけるといいなぁ、なんて思います。プレゼンの準備中はひたすらしんどかったのですが、終わってみるとこうも達成感があるものだとは、考えもしませんでした。総括すると、めっちゃ楽しかったです！

「楽しかった。」ただそれだけです。正直僕らの班が1位だと思っていました。秋ごろの時点では最下位になってもおかしくはないと感じていたのですが、結果は4位だったので結構うれしかったです。質疑応答は S 君に全部任してしまいました。それが唯一の心残りです。英語力もっとつけたいです。探究の最後のほうは役割分担がしっかりしていてスムーズに仕事が進みました。自分の仕事をやり切ったので、達成感がかなりあります。大学でも生物の研究をしたいです。

前日は一番原稿を覚えてない班と言われて、正直焦った。しかも前日にパワポを先生のパソコンに移したらフォントの設定がうまく合わずに文字がずれるという事件まで。結局前日は夜の 8 時近くまで学校にいた。そして帰宅してからも話題の Zoom を使って日付が変わるころまで、班員と練習をした。その成果があったのだろうか、本番は原稿が頭から抜けることもなく最後までプレゼンテーションを終えることができた。終わって舞台から降りた瞬間に感じた何とも言えない安心感と達成感が混じった暖かい気持ちは、とても心地よかった。今回のプレゼンテーション大会を通じてなにより感じたのが、クラスメイトの恐るべき能力の高さである。自分には英語面では、多少なりともアドバンテージがあると思っている。しかし、そんなものもそっちのけにする勢いでみんなのプレゼンテーションの質が高かった。いや、発表だけではない、質疑応答の受け答えも堂々と、そして的確に答えているものが多かった。しかも発表の練習期間はテストが終わってからのわずか2日間。それで仕上げたものとは思えないくらい素晴らしく良かったと思う。最後に石川先生がおっしゃっていたように、探究はプレゼンテーション大会をもって終わるわけではなく、逆にこれからどんどん私たちは探究をしていくことになる。これまでの探究活動を通じて身に着けた知識などを活用して今後も様々な疑問を探究していきたいと思う。